

## 北江間横穴群の現状と今後の保存・活用について

### 1 現状

各横穴群は、良好な状態で現存している。

「若舎人の石櫃」は、伊豆の国市あやめ会館1階において展示している。

大北横穴群には、普通車数台の駐車スペースが確保されている。

斜面地に立地していることも踏まえ、法面の保護等の防災対策を講じてきたほか、倒木処理や草刈りなどの日常的な維持管理を行っている。

これまでの調査結果等については、「大師山横穴群」（1976 伊豆長岡町教育委員会）を始めとする報告書等においてまとめられている。

また、近隣に所在する伊豆の国市立長岡北小学校の児童が、地域の歴史や景観まちづくり学習の対象としている。

なお、令和6年4月～5月に実施した「伊豆の国市まちづくりに関するアンケート調査」（※）の結果では、市民の認知度について、北江間横穴群が30.2%、若舎人の石櫃が14.9%であった（最高値は葦山反射炉の96.2%）。

※ 伊豆の国市まちづくりに関するアンケート調査

市民のまちづくりに対するこれまでの取組み及び今後の意向等を把握するために、市内在住の18歳以上の方を対象（無作為抽出）として実施したアンケート調査で、発送数1,500票に対し、有効回収数は676票（45.1%）であった。

### 2 今後の保存・活用

令和4年に策定した「伊豆の国市文化財保存活用地域計画」においては、保存・活用のテーマとして「都とつながる豪族の墓域－『若舎人』の眠る里－」、基本方針として「適切な保存・管理に努める」と設定している。

また、風雨からの保護が困難であるという立地上の課題を踏まえ、その適切な保存・管理を行い、後世に確実に伝えていくものとし、特に、横穴墓や崖面の適切な保存に努めるものとしている。

以上に基づき、確実な保存の措置を講じつつ、市民のさらなる理解増進を図ることを目的として、長期的な視野に立った整備計画の立案に向けた取組みを進めるものとする。



近隣小学校による学習の様子

### 北江間横穴群へのアクセス

**公共交通機関** JR東海道線三島駅から伊豆箱根鉄道駿豆線に乗り換え、葦山駅下車  
徒歩…〈大北横穴群〉徒歩40分 〈大師山横穴群〉徒歩45分  
バス…伊豆箱根バス千代田団地行き〈大北横穴群〉「幼稚園前」下車、徒歩15分  
〈大師山横穴群〉「団地入口」下車すぐ

**自家用車等** 国道136号より西に2.5km 大北横穴群には駐車場あり



- 土葬から火葬への転換期 -  
国史跡 北江間横穴群

編集・発行 伊豆の国市 企画課 歴史・文化拠点施設整備室  
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1  
TEL 055-948-1413

令和7年3月発行



土葬から火葬への転換期

# 国史跡 北江間横穴群

重要文化財 石櫃 若舎人の刻銘がある附 須恵器



大北横穴群の遠景

北江間横穴群は、7世紀中頃～8世紀前半頃に伊豆の国市江間地区に造られた複数の横穴群の総称です。江間地区は伊豆半島北部に広がる田方平野の西部に位置しており、横穴群は北側の凝灰岩層の崖や斜面の、標高20～40mほどの位置に掘られています。

横穴群とは、古墳時代の後半から奈良時代初めにかけて造られた墓の一形態です。多くは、台地のへりや丘陵の斜面に横穴を掘り、亡くなった人を埋葬するものです。同時代の墓で、よく耳にする古墳は、土を盛って、その中に埋葬施設を造りますが、横穴は文字通り横穴の中に埋葬します。横穴の墓の埋葬方法には、木や石で作った棺に遺体を納める場合と、石櫃（凝灰岩を割り抜いて加工した骨壺のこと）に火葬した骨を入れる方法とがあります。

現在確認されている横穴群は、特に古い形式の横穴を含む大師山横穴群、北江間地区では最多の約50基の横穴を有する大北横穴群をはじめ、大北東横穴群、割山横穴群、大北西横穴群、大嵐横穴群、横根沢横穴群、東洞横穴群の8か所があります。

昭和49年（1974）から調査が行われた結果、横穴群の保存状態が良好であること、土葬から火葬への移り変わりがわかることなどが高く評価され、まずは大師山横穴群が昭和51年（1976）に国の史跡に指定され、続く調査によって大北横穴群・大北東横穴群・割山横穴群が昭和59年（1984）に追加指定されました。

また、石櫃も多数発見されました。特に、大北横穴群24号横穴から発見された石櫃は側面に「若舎人」と文字が刻まれており、このことは、8世紀初頭の金石文（金属や石に文字を刻んだもの）として貴重で、大きな話題になりました。その後、この石櫃は、平成5年（1993）に国の重要文化財に指定されました。

# 千年の時を越える祈り 古え人の眠る里、北江間横穴群

## 古くから注目されていた横穴群 大師山横穴群

横穴の数：10基  
年代：7世紀中頃～8世紀前半頃  
国史跡指定年：昭和51年（1976）

伊豆中央道江間ICの西側、突き出た尾根の先端部の、標高約30mの南東向きの斜面地に並んでいます。

大師山という名前は弘法大師が経を納めたという伝説にちなむもので、特に大きな1号横穴を「大師窟」、2号横穴を「鍛冶窟」と呼び、字名をとって「珍場の横穴」として古くから知られていました。

長さ2m40cm、幅と高さが約1mの大きさの石棺がある1号横穴、凝灰岩の岩盤を掘りこんで作った石棺（造り付け石棺）とその蓋がある2号横穴、一つの横穴の中に2つの石棺があり大量の出土遺物も見つかった8号横穴など、特色を持った横穴を見ることができます。1号・2号・8号横穴は、土葬が主流であった7世紀頃に造られたものと考えられます。

## 様々な形状の横穴が造られた横穴群 割山横穴群 ※非公開

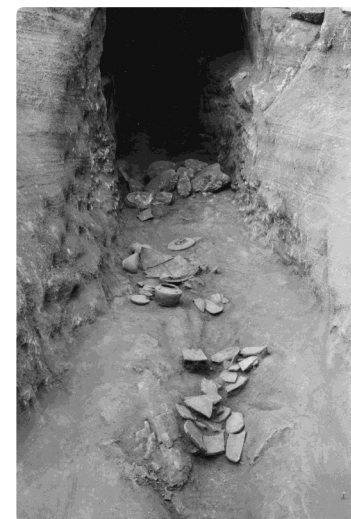
昭和54年（1979）の発掘調査で14基の横穴が確認されましたが、まだ未発見の横穴があると考えられています。奥行が6m40cmを超える大型の横穴から、全長1mに満たない小型の横穴まで、種類に富んでいます。大北横穴群とほぼ同時期に造営されたと考えられます。



大師山横穴群 1・2号墳



大師山横穴群  
1号横穴(上)  
2号横穴(下)  
の石棺



大師山横穴群  
発掘調査のようす

## 時代が変わる中でも横穴で故人を悼む 大北東横穴群 ※非公開

昭和55年（1980）の発掘調査で15基の横穴が確認されています。大北横穴群の東側、南東向きの斜面に造られています。うち2基の横穴には石棺が納められたほか、30cm四方ほどの大きさの超小型の横穴もあり、横穴群が造られた時代の終わり頃のものと考えられています。

## 伊豆と都を繋いだ「若舎人」が眠る場所 大北横穴群

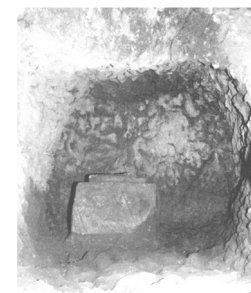
横穴の数：約50基（未調査含む）  
年代：7世紀中頃～8世紀前半頃  
国史跡指定年：昭和59年（1984）

昭和52年（1977）～55年（1980）にかけて4回の発掘調査が行われ、約50基の横穴が確認されています。伊豆中央道江間ICの北側、南東向きの斜面地の標高20～40m付近に立地しています。いずれも山の南側斜面に掘られ、その多くは保存状態が良いものでした。

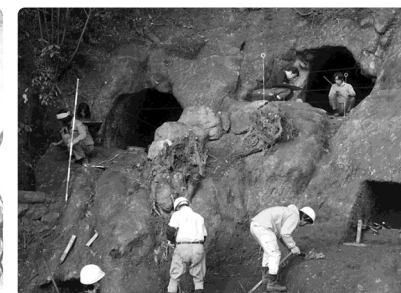
横穴の種類は様々で、死者を土葬したと考えられる奥行8m16cm、横幅2m55cm、高さ2m4cmもある大きな横穴から、火葬した骨を納めたと考えられる30cm四方ほどの超小型の横穴までバラエティーに富んだ横穴が集まっています。



大北横穴群



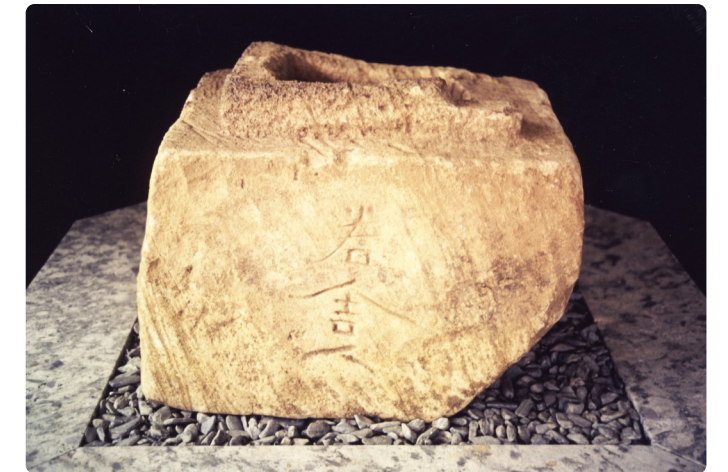
発掘調査時の  
若舎人の石棺



大北横穴群  
発掘調査のようす



大北横穴群出土 須恵器



国指定重要文化財 石櫃 若舎人の刻銘がある

## 「若舎人の石櫃」の発見

石棺が置かれた横穴は3基、石櫃が置かれた横穴は14基あり、石櫃が計23個発見されています。特に有名なものは24号横穴から出土した石櫃です。「若舎人の石櫃」と通称されるこの石櫃は、幅52cm、奥行50cm、高さ38cmで8世紀頃に造られたとされ、石櫃の側面に「若舎人」という3文字が彫られています。

なお、この石櫃は、平成4年（1992）に米国アーサー・M・サックラー美術館で開催された海外展「古代の日本」に出展されました。

## 若舎人とは？

「舎人」は、飛鳥・奈良時代に天皇や皇族の側近として、雑用や警護を担った人のことです。「若舎人」という言葉の意味は、「若い舎人」という考え方もありますし、「若」＝「皇太子」と解釈して皇太子に仕えた舎人という説もあり、後者が有力です。つまり、石櫃に葬られた人は、当時の天皇か皇太子に仕えた江間出身の官人（国家公務員）だったと考えられています。

大北24号横穴から出土した「若舎人」の刻銘がある石櫃から、伊豆の国市江間地域と当時の天皇家のつながりを知ることができます。